（別紙4）　　平成　28　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】（1階フロア）

事業所番号	2770107320		
法人名	社会福祉法人　天寿会		
事業所名	グループホーム　ファミリーハウス美原		
所在地	大阪府堺市平尾1848番地1		
自己評価作成日	平成28年6月3日	評価結果市町村受理日	平成28年8月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ　ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町２－１－８　FGビル大阪　4階
訪問調査日	平成28年6月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域から信頼され、利用者様が慣れ親しんだ地域で安心した生活が継続出来る様にご利用者様をご家族様と一緒に地域で支えます。ご利用者様の立場に立ったサービスの提供を行い、ご利用者様の持つ能力・残存機能を活かしながら日常生活が継続出来る様に支援致します。地域社会から、なくてはならない存在として安心いた信頼性のあるサービスを提供致します。また、毎年秋祭りを開催して近隣の子供達にも楽しんで頂いて地域の一員として受け入れて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

当事業所の特徴の一つに、利用者の生きがいを大切にしたアプローチがある。利用者の手作業を中心として楽しみづくり。ティッシュ袋、カットバンケース、楊枝入れ、創意工夫されたアクリルたわしマダム信子、貼るちゃん等々傑作の作品が展示されている。陶芸レク、音楽療法、コーラスレク、リハビリ体操、新舞踊ボランティア、外食行事、喫茶店訪問、銭湯、食事の支度・片付け、洗濯物たたみ、家族交流会、地域交流会、駐車場広場での秋祭りなどなどである。「できることは、自分たちで」をモットーに職員は利用者一人一人の能力を把握して、必要に応じて支援をするよう心掛けている。利用者の皆さんが在宅での生活の時よりも、心豊かに暮らしているように感じられる事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の福祉サービスの拠点とし、ご利用者様の立場に立ったサービスを提供し、ご利用者様のもつ能力に応じてご利用者様の自立した生活が営まれる支援を行います。	地域の愛され、自立した生活、生きがいのある毎日が過ごせるように支援する事を理念に表現し、職員全員が共有して実践している。	職員が共有して実践している理念を訪問者にも判るように、玄関を入ったところに掲示されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホームの駐車場での秋祭りの開催時にご利用者様の残存機能を活かした「アクリルたわしマダム信子」「貼るちゃん」「つまようじ」を配布させて頂いています。	利用者手づくり作品のぞうきん、つまようじ入れ、ティッシュ入れ、カットバン入れ、アクリルたわし近隣との交流行事で展示し配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での自然な触れ合い（散歩時・外気浴）等を通して認知症に対する偏見が解消し認知症に対する理解を啓発しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入所者様の現状報告させて頂きながら、家族様や運営推進会議のメンバーの方か意見を頂戴し実践した事など交えながら行っています。また、不参加の家族様には会議内容は交付させて頂いています。	地域の代表者、老人会長、他事業所管理者、家族と地域包括支援センター職員がメンバーとなり事業所での暮らしの様子の紹介、地域交流方法、高齢者介護等を議題として意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政とは必要に応じて相談・連絡を取っています。また、グループホーム連絡会にも参加し交流を図っています。	利用者が地域の中で暮らしを継続するという視点から、作品展示の機会や地域行事への参加活動も考慮して積極的な行政サイドとのコミュニケーションを維持するよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け毎月話合いの会議を開催し勉強会も実施しています。家族様にも充分御理解して頂く様説明させて頂いています。	最近、職員が話し合って入口の施錠（テンキー方式）をやめてタッチ式自動扉方式に変更している。施錠をしない介護について職員が協力して取組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同士でご利用者様に対する言葉使いに問題が無いか注意・確認しながら行っています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修に権利擁護についての勉強会を設けてます。必要に応じてご家族様にもお知らせしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に契約書と重用事項説明書を用いて説明を行い、また、転倒・骨折の資料も付けさせて頂き説明し御理解を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・家族会での意見・外部評価でのご家族様アンケート内容をご参考にさせて頂いています。行事にご家族様にもご参加して頂いて行く事で意見・要望をお伺う機会もあります。参考にさせて頂いたご意見は次の運営推進会議でもご報告させて頂きます。	家族会、運営推進会議、季節の行事等、家族とのコミュニケーションの確保に努めている。家族に対して利用者の変化の様子、健康状態について適示報告が行われている。預り金の報告も領収書、明細を添付して家族にきっちりと報告されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ご利用者の現状を把握している現場の職員の意見を月1回の全体会議での報告する機会がありますので管理者は運営会議の報告を行います。	職員会議を月に1回開催して、職員がお互いに取組みの状況を報告し利用者ごとの状態を共有するように努めると共に、職員からの提案について率直な意見交換を行っている。また独自の目標管理システムが運用されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議を月1回設け運営会議での取り組みや状況を定期的に行い法人の自己評価表及び目標の達成等について反省点や上司の意見を聞く事が出来る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外研修は新人・中堅・ベテランで必要に応じ研修に参加出来る機会を設けている。又、法人研修も定期的に有りホーム内でも勉強会を開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者連絡会・介護保険事業者連絡会・グループホーム東区、美原区交流会等の同業者との交流会も定期的にあり各事業所と情報交換を行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自分の気持ちを上手に表現出来る方が少なく必ずしもご家族様の思いと一致しておりませんが入所前でも色々な催しに参加して頂きホームの事を知って頂く事から始めて入所しても安心と思って頂ける様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所よりご家族様との関係が疎遠になるのではなく一番にご家族様との関係の継続と生活されて来た地域の方との関係が途絶える事が無い様にご家族様を含めてお世話させて頂く気持ちでいます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に移乗・移動・食事・排泄等アセスメントに記載し暫定期間中様子観察を行いサービスに繋げています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様に聞いたり、教えて頂いたりし意図的に経験を活かせる場面設定をしてお手伝いを積極的にお願いしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「自分が入りたいと思える施設を選んでお申し込みをして下さい」と施設見学の際にお話をしております。入所後は、参加型施設ですので、クリスマス会などの行事等ご家族様の参加を呼びかけて、家族同士の交流にも力を入れています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前にご家族様にご了解を頂き、ご近所の方の面会やお友達の面会もあります。年賀状や葉書も頂いております。	馴染みの美容院への訪問、行きつけの店での買い物、知人友人との面談、等々家族の協力を得ながら、利用者の以前からの関係を入所後も継続していく支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の自由な時間と他者と一緒のレク活動の時間とメリハリを付けたり、1階と2階の交流やADL別の交流を心がけ気の合う者同士をお隣の席にしたりその時々で適時配慮しております。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入所後、退所となるケースが多いですが退院後の相談のも矩必要に応じて他施設をご紹介させて頂いております。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分のしたい事、食べたい物等、ささいな事でも日常の中で自己決定が出来る場面を意図的に作っています。判断が困難な方に対してはイエス・ノーの何れか？単語・選択を少なくしています。生活歴など把握しながら行っております。	本人の趣味や好きな食べ物、嫌いなもの、時間の過ごし方、について入所の時点で家族から聞き取り、入所後の本人との関りに中で把握した本人の思いを職員間で共有して、本人本位の個別ケアにつなげるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にご家族様より経歴等についてお聞きしたり入所後も積極的に生活歴やエピソード等お聞き出来る様に担当者だけでなく面会時には他の職員も積極的に現状報告をしながら情報収集をしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	居室担当者が中心になって必要に応じて全体会議やケース会議で話合い、全員で情報共有に努めています。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議にご利用者様に参加して頂く場合もあります。ご家族様からは事前にご要望等お伺いし、感心のある事や出来る事（少しお手伝いをすれば出来る事）中心に作成しております。	介護計画書の見直しの際には、家族の意向を聞きかかりつけ医の意見を確認して、ケース会議を開催し、現状把握、課題、目標設定、支援方法について職員が意見を出して計画作成担当が介護計画書としてまとめ、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実行は実行者が意見を書くが1ヶ月の評価は居室担当者が代表して記入します。3ヶ月・6ヶ月とプランの見直しを評価して行きます。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人に訪問看護ステーションや特養・老健もありますのでご本人様・ご家族様の状況にあったニーズに対応する事が出来ます。法人としての対応も対応出来ますので柔軟な支援を心がけています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣や老人会のボランティアやご利用者様の作品展「みんなでつくっ展」の開催場所で地域の協力を得ながら楽しく生活を送る事が出来ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に主治医についての説明を行います。その上で選んで頂く様にしています。必要に応じて認知症専門医に受診して頂く場合や心療内科のDrの往診も当施設でも対応しております。	入所後のかかりつけ医の選定には、本人及び家族の意向を優先して決めている。個々のかかりつけ医と細かい点まで連携して利用者の健康管理を行っている。必要により適宜事業所で通院支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	W2回、同法人の訪問看護てんじゅの看護師に訪問に来て頂き診て頂いてます。また、それ以外でも、何かあれば、適時連絡を取り対応して頂いています。点滴が必要なら、かかりつけの主治医の指示書のもとで施設内で看護師にて対応し支援して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	緊急でない時は出来る限り、事前にお聞きしている病院や入院された事がある病院等への受け入れを優先しています。退院等につきましてもご家族様やソーシャルワーカーと話し合いスムーズに退院出来る様に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームで対応出来る範囲の説明やご家族様のご意向や確認事項、今後の対応について事前に話合い職員で情報を共有する様にしています。主治医と直接話合える機会も作っています。	重度化や看取りに関する事業所の方針を入所の段階で説明し同意を得ている。系列の特別養護老人老人ホーム（平尾荘）と連携した重度化対応をベースにして、グループホームで可能な対応をかかりつけ医の指示で行う方針としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を開催してマニュアルも作成しておりますが、急変や事故は度々ある訳では無いですが、実際遭遇した際慌てず行動が職員全体が出来るかは、現段階でも不安要素があります。しかし、勉強会はしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方の協力で年2回・災害自主訓練2回開催しています。備蓄としましては今回熊本地震もありましたので、備蓄を増やしています。お米・水・カセットボンベ・缶詰等しております。	消防署の協力を得ての訓練と自主的な訓練を行って万一の時に備えている。備蓄（水、食料、カセットボンベ、缶詰等）も用意されている。職員の防災意識も徹底されている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の勉強会は年1回開催、特に言葉使いについては、法人研修「ホスピタリティ接遇について」研修回に職員随時参加し、言葉使いには意識を持っています。	利用者個々の尊厳への配慮、プライドへの気配り、について職員に研修や現場指導で徹底されている。個人情報の管理も徹底されている。トイレ誘導時の声掛けも優しく感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	簡単な事柄を決めてもらう事を意図的に演出して自分の意見が言える機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分で自由に時間を過ごす事が出来る方と、どうしていいかとまどう方とでは当然対応が違ってきますが、特に、夜間徘徊され不眠の方については朝食時間を遅らせるなどの対応をしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室がありますが馴染みの美容室に行きたい方はご家族様と外出されて行かれています。衣類についてもご自分で選べる方は入浴前に自分でセットされています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の匂いで食欲がそそられる雰囲気を大切にして来ました。施設で握りすしを作ったりまた、いなりずしをご利用者様に一緒に作って頂いたり、職員と一緒に後片付けをしたり、盛り付けをしたりしています。	食事は職員の手づくり料理である。準備や片づけに利用者が参加している。おやつ作りにも利用者が参加している。利用者の五感を刺激する匂いや音も家庭的である。職員と一緒に食事する楽しい雰囲気となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の悪い方や水分等が摂れない方については水分量を記録しています。通常は1日1.200cc程度を目安にして体調を見ておりますが、高カロリー補助食品の併用や、ミキサー食・トロミ汁・刻み食対応等個々に合わせた対応をしております・		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは習慣になっておえり、毎回実施されています。衣類の汚れを気にする事なくしっかり磨く事が出来ています。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在おむつを使用されている方はおられませんが、そのような方も基本トイレ誘導を行います。時間を決めての誘導や落ち着きが無くソワソワしている時は先ずはトイレ誘導を試みます。以前紙パンツ着用の方が、普通の布パンツにADLが上がり替わっている方もおられます。	昼間はトイレで自立した排泄習慣を維持するためにタイミングの良い誘導に気を配っている。排泄の実態を記録して誘導に活用している。訴えの少ない利用者の場合は動作や表情を見て判断し、職員間の情報共有を徹底している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	煮豆など昼食に入れたり、また、朝食には、必ず牛乳・バナナOrヨーグルトを提供しており便秘症の方には、冷たい牛乳を多く飲んで頂いたりしています。入浴時の腹部マッサージも併用しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	無理強いはしませんが、入浴に抵抗がある方は入浴の順番を変えたり誘導のタイミングや声かけの仕方も変えたりしています。また、ご利用者によっては、下肢の循環の悪い方は、足浴をしながら身体を洗ってから、湯船に入って頂いています。	週に2回から3回を予定しているが、本人の希望を優先して、納得してから入浴するように心掛けている。拒否がある場合は日を変えたり、清拭、足浴、シャワー浴に切替えている。落着いた入欲が出来るように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のお昼寝や就寝時間は20:00～22:00と幅を持たせていますので個々の時間に合わせて対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録や薬箱に内服薬の説明書があり、その日のリーダーが、毎回服薬確認しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	フロアー内の色々な役割を分担して頂き、お手伝いされる喜び・楽しみを支援しています。また、時には、編み物のお好きな方は編んで頂いて、それを、皆様に持って帰って頂いたりしています。「アクリルたわし」等		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散策や喫茶店・スーパー銭湯・スーパーでの買い物等本人様の希望も考慮しながら支援させて頂いております。	天候の良い日は出来るだけ外気に触れる機会を作っている。近隣の散歩、喫茶店、美容院、買い物を兼ねて外出支援を行っている。季節の花見などの行事外出も企画して喜んでもらっている。室内リハビリも積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	荘外喫茶・昼食レクにて個別にて、ご本人様の食べたいのを職員付き添いにて外食したりし、 お金を使えるように支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じてホームの電話を利用して貰う事は出来ます。また、手紙を出したい方につきましては、ポストや郵便局に一緒に出かけ自分で出されています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	近隣の散策や散歩以外でも気候の良い季節は野外の駐車場でのレクやバーベキュー・おやつの開催など五感に触れる機会を多くする様に努めています。	前庭の駐車場スペースは行事が行える広さがある。建物内部は明るく自然の採光状態も良く廊下の窓からは近隣の緑の展望が開けている。食堂兼リビングも広く陶芸教室などのがゆったりと行えるスーペスとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室内での椅子を設置し居室内での交流もして頂き、また、ご本人様のご希望に添ってコーヒーの提供もして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はありますが、ご本人様の作品を飾ったり、好きな芸能人のポスターを貼って頂いたりと馴染みの家具や仏壇を自宅より持参されています。	居室は清潔である。家族に協力をお願いして、馴染みの家具や備品、思い出の写真を置くなど、在宅と違和感のないような居室づくりに努めている。家庭的な雰囲気の部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々のADLを把握して、居室での移乗をしやすい様に環境を変えたりし、またあと片付けや掃除なども分担し行って頂いています。		